



永田周太郎 Shutarō Nagata

TBSテレビ 美術センター美術デザイン部
(1995年3月 工学研究科博士課程前期修了。現在、同研究科博士課程後期に在籍)

—現在の仕事内容は?

ドラマや映画で使うセットのデザイン全般ですね。例えば、台本に「〇〇が記者発表をする」と書いてあれば、記者会見場のデザイン案を考え図面を引き、スタッフに指示してセットを作り上げ、最終確認をするのが僕の仕事です。



永田さん手作りのセットの模型

大変ですよ、裏方の仕事は。髪を切りに行く時間もないくらい。最近だと映画「花より男子」の撮影をしながら、4月からのドラマ「ルーキーズ」の仕事も同時に進めていて、30時までの撮影なんて普通。休みなんて取れないんです。

でも、やりがいはいっぱいありますよ。見てくれる人はたくさんいるし、形になって残る仕事だからね。視聴率も大事だけど、モチベーションが上がるのは、完成したセットを初めて見た役者さんの反応が良かったとき。しょぼいセットだと役に入り込めないと思うよ。役者さんがいい演技ができて「TBSのセットいいよね。だから、TBSに出るんだよ」なんて言われたら最高だね。

—デザイナーとしての永田さんの強みやこだわりは?

工学部でドイツ建築について学んでいたから、今の仕事とは畑違いの出身なんだ。周りのデザイナーは美術大学

裏方の仕事で

「いい演技」をサポートする。
個性も大切だけど、リアリティも必要。

出身者ばかり。働き始めて11年たつけど、なんかなるものだね! 逆に、それが強みになることがめちゃめちゃあります。美大出身者って、型通りのセットを作りやすいって感じる。僕の場合はゼロからのスタートだから、知識が邪魔をしないんです。自分なりに考えられる。それが一番大きな強みかな。

この仕事って、だいたい指名なんです。言われたことは当然できた上で、自分なりのアイデアを持ちつつ仕事をしないと生き残れない。でも、あまり個性を出しすぎると失敗するし、視聴者の目線に立ったリアリティがないとね。「半歩先を行くデザイン」そのバランスと闘っています。

—学生へのメッセージ!

僕自身、今も必死で生きているから偉そうには言えないけど、「初心者であることを恥じないで、困難を乗り越える努力を続けよう」って言いたいです。

社会人って、大変そうながしなない? でも、新入社員はみんな素人だから、仕事なんて入社してから学ぶのが当たり前。恐れる必要は全然ないんだよね。職場で先生と呼べる人を見つけて、ひたすら勉強すればいい。10年努力すればどんな人でもその道のプロになれる! これが僕の持論です。



永田さんのデザインブック

- 受: 2001年「明るいほうへ明るいほうへ」(第10回橋田賞受賞)
- 賞: 2002年「明智小五郎対怪人二十面相」(第30回伊藤嘉明賞受賞)
- 歴: 2005年「涙そうそうプロジェクト」(第5回映像技術賞受賞)

社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。
仕事のこころから学生時代に身に付けておくべきことはまたインタビューの語りで、
私たち学生の素朴な疑問・質問にも答えいただきました。

羅針盤 O&O 紹介



—入社した動機は? 入社後の仕事は?

「中国語を生かしてグローバルな仕事をしたい!」これが就職活動の基本でした。でも、業種を決めるのは難しかったですね。中国の日系企業を調べたり、自分の興味があるのは何?って考えながら、徐々に絞り込んでいった感じです。振り返ってみると、留学中の体験が通信会社を選んだ動機になったのかなって思います。当時、北京市内の寮には電話が各フロア1台のみ。友達と連絡を取り合うことすら難しく、そのとき通信の重要性を認識しました。

入社3年目は、希望の仕事ができる部署に配属されました。でも、次第にマーケティングにも興味を持つようになって、今の部署へ異動希望を出しました。

—現在の業務内容は? やりがいは何?

担当サービスのプロモーションです。具体的には、広告の掲載やパンフレットの制作、キャンペーンイベントの企画・運営など。この仕事で大切なことは、プロモーションイメージをしっかりと持つことです。例えば、広告を出すときは、広報室と相談し、方針を固めてから広告代理店と広告媒体の会社に伝えます。そのときに最終的なイメージがないと、どうしてもぶれてくるんです。「こんな雰囲気」と伝えつつも、もっと詳しく指示しなければ、制作物がこちらの意図とずれてしまい、イメージを固めすぎると表現が広がらなくなるので、その調整が難しいですね。あとは、締め切りまでにいかにお客様にとって分かりやすい



ものを作り上げるか、そこは常に意識しています。

完成品を見たときには、達成感がありますね。でも、それはいったんの達成感。本当にやりがいを感じるの、広告の効果でホームページのアクセス数や資料請求数が増えたときです。自分の仕事の向こうには、多くのお客様が存在するんだと改めて実感できます。

—休日の過ごし方は?

他社で働いている友達や仕事を通じて知り合った方と食事やショッピングに出掛けたりしています。社内にいると、

自分の担当業務に没頭しがちですが、社外の人と会うことで、違う観点から物事を見られるようになりますね。休日の時間をいかに有効活用するかが、仕事のモチベーションアップにもつながります。

—今後の目標は?

仕事をしていると、興味って広がるんです。入社時は、自分がマーケティングに携わるなんて思ってもいませんでしたから。どのくらいかかるか分かりませんが、「その道のプロ」と言われるまで、自分の可能性を信じて挑戦し続けたいと思います。



黒田雅子 Masako Kuroda

NTTコミュニケーションズ株式会社 ブロードバンドIP事業部 マーケティング部
(1998年3月 文学部卒業)

—どんどん興味がわいてくる仕事。

自分の可能性を信じて、挑戦し続けたい。

取材を終えて



自らデザインした作品を見せてくれたときの笑顔が印象的でした。いかにも業界人みたいな方を想像していましたが、仕事に対する意識が非常に高く、日々勉強して自分を高めることに妥協しないまじめな方でした。今も広大の大学院に在籍し、博士論文を執筆中だとか。「数年前に一級建築士の資格も取得したし、博士号が取れたら制覇!」と熱く話ってくれました。おほかで親しみやすい空気を放つ永田さんは、憧れの社会人像です。

取材・記事 / 生物圏科学研究科修了 有富 大輔



明るくエネルギーあふれる黒田さん。インタビュー後、長距離移動と緊張で疲れていたはずが、逆に元気になっている自分に気が付きました。きっと仕事仲間の皆さんも、先輩のキャラクターに助けられているのではと思います。印象的だったのは、やっぱり笑顔。気持ちのいいコミュニケーションには欠かせないということを再確認しました。私も春から社会人。笑顔を忘れずに、明るく、エネルギーあふれる黒田さんに行きます!

取材・記事 / 総合科学研究科修了 蜂谷 朋子